

いなづま

題字 小寺 寛一

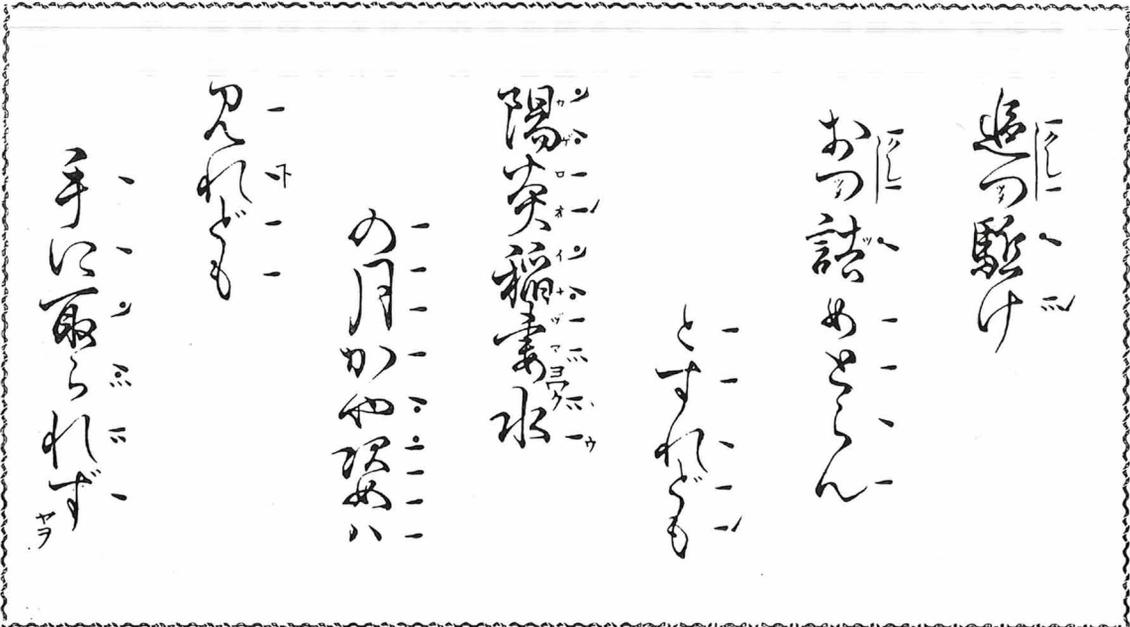
発行所 函館地方電気工事協同組合

編集 総務部

住所 函館市日乃出町7番22号

印刷所 有限会社 豊国堂印刷

発刊10周年記念号



謡曲「熊坂」

(創刊号表紙)

春宵の夢

理事長 大倉伸夫



去る三月四日、組合創立30周年記念行事を盛大の裡に無事済ませましてご協力を厚くお礼申し上げます。

組合が益々大きくなる事につきましては御同慶の至りと申し上げたいのですが、反面、これだけのだらうかと疑問の念を禁じ得ないのであります。

業者の数の増加と共に理想からだん／＼離れて競争は激しさを増し、益々商売はやりにくくなって参りました。

現行法の中では、どの力を以ってしても之れを押えることは出来ませんし、無理に行なおうとすること自体が法に触れるのです。只我々は組合員同志ですから、組合員良識の中で、客の奪い合いを行なう様な競争を行なわないことを、申し合わせ実行する以外に方法はないと思えます。

支部制を創った一番大きな目的が、話し合いの機会をもつ程度と考えておりましたが、支部が大きくなり過ぎたのか、支部にそれ以上の問題があるのか、支部の内部でその問題が討議されて役員会に提案されるのは極めて稀であります。組合の事業の中で、過当競争の防止、という大きな項目がある以上、組合としても適法内において、あらゆる方法を講じてこの事に取り組んでいきたいと思えます。

過当競争防止のアイデアの一例として、アメリカ方式があります。受注と発注を分離し、受注は営業活動のみを行ない、工事は必ず外注する。外注された側では受注工事金額を標準で行なえば値の崩れることはない。アメリカではこの方式で、電気工事業者の建設業界における地位は高位に確保されております。

その二は、極端な方法かも知れませんが、電気工事は総て組合が受注する方法です。業者は営業した工事設計見積りを組合を経由して行ない、適正な価格で施主と契約し、工事後も集金、アフターサービス、図面の保管まで組合が代行する。これでは値崩れはおきない。国内でもこの方法の一部で実施されている処もあります。

以上ほんの一例に過ぎませんが、多少、自由経済の原則にそぐわぬとは云え、業界の地位向上と組合員の利益を確保するために、止むを得ぬ方法でもあらうかと考えます。

組合員の皆さまにも名案があればご教示下されば幸甚です。

「いなづま」

発行十周年記念を祝して

北海道電力株式会社

函館支店長 水永与士夫



りましたことを心からお祝い申し上げます。

何ごとによらず新しい物事を始め、それを長年月にわたって継続して行くことは、幾多の困難と、大変な苦勞を伴なうものですが、これらを乗り越えて、充実した内容の機関誌「いなづま」を十年間も発行して来た蔭には、歴代の役員を初め、組合員各位の並々ならぬご努力があったものと、深く敬意を表する次第であります。

「いなづま」が誕生してから今日までの社会経済情勢は、まさに激動の時代であり、とりわけオイルショックならびに最近の円高不況は、未だかつてない長期深刻化の様相を呈しております。

私が昨年着任の際、本誌で「車の両輪」にたとえてお互いの健全な発展のために、ご協力をお願いしたとおり、今後の厳しい事態を克服して行くためには、貴組合と当社の一層の協調が必要であります。

今後は貴組合員各位の結束を一段と強化することが必要と存じますが、この面で「いなづま」が果たす役割りは、これまでの十周年に比べて、はるかに大きなものであり、より一層の充実を期待して、十周年記念号のお祝いの言葉といたします。

役員会だより

第六回役員会

五二、一〇、一二

- 一、組合事務所補修について
大倉理事より事務所の補修についての説明のうち各理事より意見聴取をし、臨時総代会を開催し承認を得ることに決定
- 二、臨時総代会について
日時・場所について審議の結果左のとおり決定した。

日時 十月六日 午後一時三十分
場所 組合会議室

- 三、永年勤続表彰式について
日時・場所について審議の結果左のとおり決定した。

日時 十一月二十二日 午後三時
場所 組合会議室

第七回役員会

五二、一一、一〇

- 一、慶弔報告
(一) 函館左官協同組合池田理事長尊父死亡
(二) トーラス電工舎代表者母堂死亡
- 二、貸付報告

四社 一三〇万円

- 三、臨時総代会の結果について
- 四、各支部・部会報告並提案事項について

- (一) 平井監事より会計の中間監査報告
- 五、年末金融について

- 六、永年勤続表彰式について
- 七、厚生年金基金制度の説明会について

- 八、住友生命団体共済保険最低口数の増口について

- 九、積雪寒冷地冬期雇用促進給付金の概要について
- 十、事務局職員への賞与について

理事長、副理事長三人に一任した。

第八回役員会

五二、一、六

- 一、慶弔報告
(一) 北電函館営業所工事係長母堂死亡
(二) 富士技研代表者母堂死亡
(三) 空知協組神田顧問死亡
- 二、貸付報告

一社 二〇万円

- 三、各支部・部会の報告並提案事項について
- 四、組合加入規程について

- 五、住友生命団体共済保険の配当金について
- 六、大同生命保険の契約について

- 七、事務局業務の御用仕舞、御用始について

- 八、最低口数が二口に増口されて居ない組合員に対し支部長を通じて要請した。

- 九、積雪寒冷地冬期雇用促進給付金の概要について
- 十、事務局職員より概略について説明した。

- 十一、理事長、副理事長三人に一任した。

- 十二、事務局業務の御用仕舞、御用始について

- 十三、最低口数が二口に増口されて居ない組合員に対し支部長を通じて要請した。

- 十四、積雪寒冷地冬期雇用促進給付金の概要について
- 十五、事務局職員より概略について説明した。

- 十六、理事長、副理事長三人に一任した。

- 十七、事務局業務の御用仕舞、御用始について

御用仕舞 〓 十二月二十九日正午
御用始 〓 一月六日

八、北海道の最低賃金について

十月三十日付をもって一日当二二・二円、
一時間当二七・七円に改訂された。

九、組合創立三十周年記念式典について

開催日については審議の結果、三月四日の午後
に決し、詳細については、総務委員会で計画し、次
回に審議する。

第九回役員会

一、慶弔報告 なし

五三、一、一三

二、貸付報告

(一) 一般貸付 一社 五〇万円

(二) 年末特別融資 四一社 四、一〇〇万円

三、各支部・部会報告並提案事項について

(一) 北支部 〓 支部会議、忘年会の開催

(二) 福島支部 〓 支部会議、安全祈願祭を行った。

四、家庭用電気設備安全運動の実施について

五、組合創立三十周年記念行事について

記念品予算についての概略説明、来賓についての
審議

六、組合新規加入申込について

加入申込者一覧表配布

七、三水会の開催

日時 二月二日 午後三時

場所 北電郁雨荘

八、その他

(一) 工業組合総代会の開催

(二) 全道電気工事技能競技大会の開催

日時 一月二十七日 午前八時三十分

場所 小樽市総合体育館

(三) 空知協組二十五周年記念式典

四 北電函館営業所業務講習会の開催

日時 二月八・九日 午後一時より

場所 組合会議室

第十回役員会

五三、二、二

一、慶弔報告

(一) 協信電気工業社長令室死亡

二、貸付報告 なし

三、各支部・部会報告並提案事項

東支部 〓 (一) 新規加入申込者の検討

(二) 年末特別融資の手形について

北支部 〓 支部会報の発行

江差支部 〓 家庭用電気設備安全運動の周知

中渡島支部 〓 研修旅行の発表

訓練部会 〓 全道電気工事技能競技大会の結果発
表

四、新規加入申込について

申込者について一月二十日の面接審査の結果発表
があり、全員加入を承認した。

五、組合創立三十周年記念式典について

式典当日における各担当を決めた。

六、管外組合員の引込線、計器工事工料の取扱いの
変更について

三月一日から管外工事の引込線、計器工事の工料
等の取扱いが変更になった。

七、その他

(一) 北電、こんにちは旬間の協力について

旬間中の行事として、寝たきり老人宅の巡回配
線診断が行なわれるので、各支部から協力して
欲しい。

八、照明コンサルタント養成講座について

照明学会北海道支部主催の右養成講座が開かれる
ので受講したい。

日時 二月二十三・二十四日

午前九時半～午後四時

場所 函織ビル三階

組合員の異動変更

【組織・名称・住所の変更】

(新) (旧)

一、斎藤電気工業 函館市本通り町三五三 〓 函館市富岡町一〇

一、(株)大成電業 〓 一

一、函館市上新川町二〇一八 〓 函館市本町一六一一

一、大倉電気(株) 〓 大倉有線電気(株)

一、函館市本通り町二二三一一 〓 函館市深堀町一一一四

一、ヒトシ電器 〓 〓

一、上磯郡上磯町追分町 〓 函館市日吉町二一三八

一、イトウ電気商会 〓 四三一四 〓 一八

一、函館市高盛町二〇一九 〓 函館市高盛町二二一五

一、(有)汐谷電機工業 〓 〓

一、茅部郡南茅部町木直 〓 茅部郡南茅部町木直

一、佐々木電気工事店 〓 九二二 〓 一二八

一、松前郡松前町字愛宕 〓 一〇九一三 〓 二七八

一、(有)森電設 〓 〓

一、松前郡松前町字朝日 〓 三九五 〓 松前郡松前町字弁天二三

組合員消息

一、十月二十九日 トーラス電工舎代表者 熊谷浩四郎氏母堂死亡

一、十一月二十二日 富士技研代表者杉本厚治氏 母堂死亡

一、一月十六日 (有)手塚電気社長 手飯勲氏 母堂死亡

一、三月二日 右腕骨折入院 (現在入院中)

一、三月二日 下山電気商会代表者 下山正義氏 母堂死亡

一、三月二日 下山正義氏 母堂死亡

一、三月二十一日 西川電気商会代表者 西川文夫氏 母堂死亡

組合行事

- 10月2日 認定事業内職業訓練校对抗卓球大会
- 5日 いなづま編集会議
- 6日 臨時役員会
- 12日 第六回役員会
- 全 北支部会議
- 14日 東支部定例会議
- 15日 事業内訓練校事務連絡協議会に森谷校長出席 (於池田町)
- 19日 道工業組合役員会・委員会に、大倉理事長吉田副理事長出席
- 全 西支部会議
- 21日 中渡島支部定例会議
- 全 中支部会議
- 24日 第二十七回北工連絡会議
- 26日 臨時総代会
- 28日 安全衛生協議会打合会議
- 11月1日 積雪寒冷地冬期雇用促進給付金の説明会に坂本事務長出席
- 4日 電気事故互助会委員会に大倉理事長出席
- 10日 第七回役員会
- 14日 金融委員会
- 15日 北支部定例会議
- 16日 道工業組合役員会・委員会に、大倉理事長吉田副理事長出席
- 全 西支部会議
- 全 中支部会議
- 18日 中渡島支部定例会議
- 19日 年末特別融資説明会
- 21日 全 右
- 22日 永年勤続表彰式 (於組合会議室)

- 25日 東支部会議
- 全 渡島支庁による訓練校事務監査
- 27日 空知協組前理事長神田政良氏の組合葬に大倉理事長出席
- 12月1日 金融委員会
- 3日 全 右
- 6日 第八回役員会
- 13日 北支部定例会議・忘年会
- 16日 道工業組合役員会に大倉理事長出席
- 17日 西支部会議・忘年会
- 27日 訓練校主任会議
- 29日 御用仕舞い
- 1月6日 御用始め
- 11月9日 道工業組合の福岡県工業組合視察旅行に大倉理事長同行
- 12日 福島支部会議
- 13日 第九回役員会
- 17日 道工業組合役員会・委員会に大倉理事長、吉田副理事長出席
- 18日 全道電気工事技能競技大会競技委員会に吉田副理事長、吉岡主任指導員出席
- 20日 東支部役員会議
- 全 中渡島支部定例会議
- 25日 空知協組創立二十五周年記念式典に大倉理事長出席
- 26日 全道電気工事技能競技大会打合会議に大倉理事長外二名出席 (於小樽市)
- 27日 全道電気工事技能競技大会 (於小樽市) に少年組・青年組 壮年組各一名参加
- 28日 中渡島支部研修旅行会 (能代市)
- 28日 東支部会議・新年会
- 29日 訓練校「個人理解の仕方」研修会に吉岡、岸部指導員参加
- 30日 新規加入申込者面接審査
- 2月2日 第十回役員会

- 全 第四十八回三水会議 (於郁雨荘)
- 4日 サービス・センター打合会議
- 8日 北電函館営業所業務研修会 (於組合会議室)
- 9日 建設業交通安全総決起大会に佐々木 (三) 担当理事出席
- 10日 積雪地雇用促進給付金の説明会に坂本事務局長出席
- 13日 組合創立三十周年記念誌編集会議
- 14日 訓練校技能照査 (学科) 実施
- 16日 福島支部安全衛生協議会
- 17日 訓練校技能照査 (実技) 実施
- 21日 法人を対象とする税務講習会 (於組合会議室)
- 全 西支部定例会議
- 22日 漏電しや断路器取付促進のための説明会 (於組合会議室)
- 24日 道工業組合役員会・総代会に大倉理事長外四名出席
- 全 訓練校主任指導員会議
- 28日 N・H・K受信システム講習会 (於組合会議室)
- 3月1日 組合創立三十周年記念式典打合会議
- 全 札幌通産局による訓練校の監査
- 4日 組合創立三十周年記念式典挙行
- 17日 厚生年金基金制度についての説明会
- 全 中渡島支部定例会議
- 20日 訓練校指導員会議
- 23日 全道電気工事技能競技大会反省会に、吉田吉岡両委員出席 (於札幌)
- 25日 いなづま編集会議
- 27日 電気事故互助会委員会に大倉理事長出席
- 31日 函館内線支部安全衛生協議会開催 (於組合)

全北海道技能競技大会開かる

去る一月二十七日、昭和五十二年全道技能競技大会が、小樽市総合体育館に於いて開催された。競技はセレモニーの後、午前九時三〇分から開始され、各地区単協の代表選手は壮年、青年、少年の三組に分かれて、三時間の持ち時間で熱戦が展開された。今回の大会は道内十一単協より四十二名の選手が参加して技が競われた。

我が組合からは、壮年組―加賀光雄君（加賀電気商会）青年組―木下久弥君（大倉電気）少年組―石谷広平君（三興電機）の三名が訓練校の吉岡指導員の引率のもとに参加した。昨年二月に北見市で開催された前年度の全道技能大会に於いては、残念ながら各組共一名の入賞者も出せなかった結果にてらし、本年は事前に支部対抗の技能大会を催して、全道大会の予選を兼ね、その優勝選手に充分な特訓を行って、今回の全道大会に備えた訳であるが、少年組と青年組の予定選手が所属の会社を退職する等のハプニングがあって、大会への出場者は前述の予選大会での、少年組は三位、青年組は二位の選手を夫々繰り上げて出場せざるを得ない状態となったのである。

競技の審査にあたっては、過去の競技大会において「審査基準」が確立していなかったため、最終審査の段階で、競技委員間でくい違いや、見解の相違で種々論争があった実態にてらし、昨秋より連合会の技術委員会で討議し、本大会直前に決定した新しい「審査基準」を、各単協の競技委員と再検討した案をもって、この大会から採用することになった。

競技開始後、時間を経るにつれて工程の差が徐々に表われる様になった。本年の課題では、壮年組と青年組が同一課題であったが、青年組の方がおしなべて進

行度が早いのは、やはり年令と体力の差でもあろうかと、興味が深かった。

又競技開始後一部の選手が、芯出しの時間節減のために予め位置寸法等を書きこんだ型紙やビニール幕を作業板に張り付け、配管や取付器具の芯を書き写して



【全道技能競技大会】

から型紙を外し作業にとりかゝった選手や、ひどいのは完了寸前まで型紙を外さぬ選手があって、競技課題の「事前発表」とは云え、前述の審査基準の盲点をついたこの種の行為は、今後の大会において問題となろう。因みに技能五輪の全国大会では、この行為は認められていない由である。

とも角、時間の経過と共に、技術の優劣とは別に、進行度の差が歴然と判る様になり、少年組・青年組では持ち時間の半分位で終了した選手が三、四名もあった。それらは大手電設業者の選手達で、工具その他にしても競技用に考案された特別な工具を巧みに駆使して、見学者の注意をひいていたのが印象的であった。

終了後長時間の慎重な審査の結果、各組五位までの入賞者が決定したが、当組合は青年組で木下久弥君が第一位に入賞したものの、少年組と壮年組は惜しくも入賞を逸した。昨年の北見市の大会に比べ、青年組一位入賞で辛くも函館勢は面目を保った恰好となったが選外の二選手は共に、技術的な失点よりも「時間減点」が禍いしたのが残念であった。技術面で伯仲した場合、仕上り時間で決まる「時間減点」で勝敗が分れるのは競技会である以上仕方がない事で、爾後の選手特訓に際しての重点的な項目であろうと痛感した次第である。

今回の大会は会場も広く、地元の小樽電協の担当各役員の大協力のものと、設営や運営も順調に運び、成功裡に完了した事は、当組合としても、一、二年後に控えた大会の当番に備えて、選手の育成教育は勿論の事であるが、見習うべき点が多くあったと大に参考になった。

昭和五十三年全道電気工事 技能競技大会

開催日 昭和五十四年二月七日

場所 西桔梗町

流通センター 展示場



【組合特別功労者表彰】

盛大に組合創立 三十周年記念式典

去る三月四日、当組合本年の懸案の一つであった「組合創立三十周年記念式典」が華やかに挙行された。

式典は末広町五嶋軒に於いて午後三時より関係官庁北電、道内各電気工事組合並びに関連友好組合、金融機関、電材業関連など四十八名の来賓、組合員事務局等計二百十名の出席を得て、組合員物故者に対する黙禱から始まった。

大倉理事長のあいさつは、昭和二十三年創立以来の組合の変転と経緯の説明があり、今後共組合員の協力と団結を図って、共存共栄の実をあげ、地域社会に貢献せんとする決意が述べられた。

ついで特別功労者表彰に移り、故人三名を含む八名の受表彰者が花薫る壇上で栄ある表彰をうけた。

来賓側からは、知事、市長、北電社長、中小企業団体中央会として、田中道工組理事長と鄭重なる祝辞をいただいた。最後に北海道知事からの表彰状を大倉理事長がうけ、祝電披露があつて無事式典は終了した。

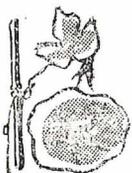
漸時休息のあと式典の第二部は、湯川温泉の綺麗どころや松風町の美女連多数を交じえ、北電水永支店長の祝杯の音頭で賑やかに祝宴が開始された。アトラクションとして民謡の佐々木基晴社中の名調子で祝宴の雰囲気があがった処で、「当地函館の「巴太鼓」と変わり、雄壮活潑、緩急自在の旋律と小太鼓を胸にだいた軽ろやかな少女の踊りも入り、万雷の拍手の盛況裡に祝宴は和やかに開きとなった。

式典前の午前中は冷雨に見舞われたが「雨降って地



【挨拶する北海道電気工業協同組合連合会会長 田中義秀氏】

固まる」の諺通り、道内十一単協でトップを切った創立三十周年を祝ったことになる。当組合の長い歴史と明日の組合、組合員の繁栄を象徴するが如き当日の天候であり、又盛大な式典であった。



追記、記念式典準備委員及びいなづま編集部との調査



不備により、特別功労受
彰者より八雲支部岡田電
気商会、岡田辰之助氏の
人選洩れが調査の結果判
明いたしました。

氏は昭和三十年加入、三
十七年以來理事事を十二年

に亘って務められました。

岡田氏対しまして、誠に申訳なく謹んでお詫び申し
上げます。

第一回年末特別融資

について

すでにご承知の通り、昨年十二月、うち続く不況
に対処するため、一組員当り一〇〇万円の年末特別
融資を実施した。

十一月十九日・二十一日の二回に亘り、説明会を開
き、申込みを受付けたところ、四十八名からの申込み
があり、理事者金融委員のほかに借入申込者の中から
選出した若干名委員を加えた特別金融委員会において
審査を行ない、四十一名に対し総額四、一〇〇万円の
融資を行なった。

返済は二ヶ月据置き三月からの分轄返済で三月、四
月と事故なく返済されている。

最後まで、事故なく完済し、次回融資の礎となる事
を期待しております。



随筆

駒井亀太郎

「いなづま」が発刊されてから十周年目に当るので
編集員夫々何か一文をと、いうことである。十年一昔
というけれど、四十三年一月二十六日に創刊号が出さ
れてから既に十年経ったのだから、月日の過ぎるのは
早いものである。機関誌とか同人誌などというものは
大抵三号位迄は続くが、それを過ぎると何時とはなし
に消え去るのが多いといわれているのだから、十年も
生き永らえて、而もこれから先も何年寿命が続くか前
途有望と思われるのだから、中身はともかくも恰好だ
けは一人前以上であろう。これ迄協力と援助をいただ
いた組員・事務局の方々には感謝すると同時に、自
画自讃する訳ではないが、他の編集員共々、いくらか
でも役に立ったと素直に喜んで良いのではなからう
か。

寿命といえ近頃、安楽死の是非についての論議が
多くなつたが、このような重大事は吾々門外漢が、と
やかく事の善悪を判別できるわけではないが、いろん
な立場の有名人の主張を尋ねるにつけ、何か論議の進
め方に納得のゆかないものを感じるのは私だけであろ
うか。

「人間の生命は尊い。一人の生命は地球よりも重い
」というが、あらゆる人間すべての者の生命が無条件
に、地球よりも重い程、大事なものであるならば、兇
悪な殺人犯の生命も、先頃ドイツ特殊部隊に射殺され
たハイジャック犯人の生命も同様に、至上に重且大で
法律的にみとめられた死刑によつても、それを奪うこ
とは出来ないという事になる。すべての生命が「生き
ている」ということのみ故に、尊厳犯すべからざる

ものならば、人間の生命と動物の生命と、どこが違う
というのだろうか。吾々は食料として、研究材料とし
て、趣味の対象として、又人間から見ても有害物である
という理由からだけでも、必要以上に動物を殺傷して
いるのではないか。

戦争が始まると、わが身は小鳥の羽毛の軽きにも喩
えられ、大義の為には生命を投げ出すことは花の散る
如く、当然の事として扱われ、生命を惜しめば日本人
に非ずとして非常な迫害を受けたものである。戦争が
終るや一転して、民主自由一辺倒ですべてが解決され
るが如く、人間の生命は急に地球よりも重くなつて、
これを冷静に考え、批判を加えることはタブー視され
る風潮である。いづれが是か非かは別として、真理は
時代によつて簡単に、その比重を変えられるものであ
つてはならないと思う。

人間も亦、動物の仲間ではあるが、本能のままに眠
り、喰い、走り回る他の動物達と、どこか違うところ
があるとすれば、その一つは所謂「考える輩」といわ
れるように、思考能力を持つ存在ということではな
からうか。

ところで、吾々は自分で「生れるべきか否か」を考
えてから生れてきたわけではなく、自らの知らない何
かの事情で生命を吹きこまれ、而も「生まれ出する悩
み」も知らず、運よくこの世に生を享けている訳であ
る。この地球上で例外も許されず、奇蹟も起り得ない
、唯一つの真理は、すべての人間は必ず死ぬというこ
とであろう。そして私という存在は、生まれる迄は、
この地球上に無かつたのであり、僅々数年乃至百年も
すれば絶対に、又この世から無くなつてしまふという
悠久の時間から見れば瞬間の存在に過ぎないのであ
る。と知りながらも吾々は一万年も生きていたいと願
っている。そして実際、自分だけはいつ迄も生きてゆ
けるつもりで、日常振舞っているのである。ふつと老
病死の不安を感じつゝも、無信不立(信無くんば立た
ず)信念なき者、信仰なき者、安心立命は得られない
という意味であらうか……。

始めに、生を得たのがほんの偶然に左右されたのなら「考える輩」なればこそ、せめて必ずきたるべき死については、若し天命を待たずして、その時期を何等かの方法で定め得るような予期せざる状況に立ち至った時には、自らの意志で自由に決定出来る選択の権利をみとめて貰いたいものである。そのような時、その問題を自ら自由に費したくから、自分の生命は不当に他動的な力に依って奪われたくはないし、それ故にこそ、隣人の生命も尊く侵し難く、勝手に他人が左右してはならないと思う。

ともあれ「いなづま」も只「長きが故に尊からず」単に事務的なる組合の広報誌に止めず、創刊後編集後記に明らかにしているように、形式にとられず、型破りの「在り方」(組合員の生の声を公正に堂々と)を標榜とし、名実共に実りある寿命の長からんことを希うのである。

茶 寿

平沼智子

今年(戊午)は(つちのえうま)の年である。
つちのえとは十干の五番目。十干とは

- きのえ(甲) きのと(乙)
- ひのえ(丙) ひのと(丁)
- つちのえ(戊) つちのと(己)
- かのえ(庚) かのと(辛)
- みづのえ(壬) みづのと(癸)

書きながら順位の組み合せの妙を考えている。

馬は、はねるので午年は景気がよくなると云われているが、果して希望通りのテンポイントになってくれるかどうか。ジャジャ馬では手がつけれない。

人生、毎日楽しい事ばかりではないが、過ぎてみればなつかしい事が多い。組合も三十年を迎え、理事長も四代目となり、組合員も二百四十名の大世帯となった。私自身、代表者になって二十年になろうとしてい

る。歳月の流れに感無量のものがある。
たま／＼上京したら、国電の中のポスターに「茶寿」と云うのが出ていたのでメモした。(おかげで乗りこしてしまった。)

(一)還暦

数え年六十一才。自分の生まれた干支に戻るの十二の倍数に十干が加わりプラス一。ちなみに干支とは干(え)と十二支の支(と)である。世にひのえうま(丙午)は有名だが、各自、自分の十干まで知っている人は少ないのではないか。

(二)古稀

七十才。これは「古来稀れなり」からきている。昔は人生五十年。七十才までの長寿の人は数が少なかったので稀少評価があったのでこのように祝った。

(三)喜寿

七十七才。喜の字の草書体は七となるので七十七である。普通喜の字の祝と云っている。

(四)米寿

八十八才。これは米と云う字を分解したもので、どなたも御存知のもの。農業を産業の基盤としている日本としては当然の祝であらう。

(五)白寿

九十九才。これは百と云う字より、上の一を取り除いたものでなか／＼考えたと思う。

(六)茶寿

百八才。問題の茶寿である。こんながあるとは私は知らなかったが、成程と感心している。茶の字を分解すると、クサクムリは(サ)で二十。中は八十八となる。合計して百八才である。頭の良い人も居るものだ。百八才までは生きずとも白寿の人は年々多くなっていることは、よろこばしい事である。吾々も望みは捨てたものではない。だがこんなきびしい時世では神経の方が先に参ってしまう。組合も三十年を迎えて何と云う寿なのかは知らないが、喜寿・米寿までつづいてほしいものである。そして吾々も共に栄えたいと思う。それに過当競争をやめて企業を防御する「生きる智慧」を掘りおこさなくてはならない。

いなづまに想う

工藤義一

昭和四十二年の秋に、組合員の要望と役員会の決定により、組合機関誌を発行することになりました。機関誌の編集にあたり、編集員の一人として任命されてから、早や十年の歳月が流れ去って行きました。

今、心静かに想いを巡らすと私の人生にも激しい変化がありました。それと同じに組合にもめまぐるしい十年の日々が過ぎ去っていきました。組合創立三十周年記念の年にあたり、奇しくも「いなづま」発刊十年と重なりこんな喜ばしい事はありません。

当時の小寺理事長の筆により、題字に「いなづま」と記して、昭和四十三年一月二十六日創刊号を送り出したのも昨日の様な気がします。当初、我々編集員は儀礼、形式にとられず、又おぎなりの俗物にならぬ様に、組合員皆様の声を忠実に伝える事、また新鮮味のある記事、誰が読んでも面白く楽しいそして親しみもてる「いなづま」にするべく、皆様方の御協力をえて、全員一生懸命駆けつづり回って創刊号の誕生をみたのであります。

当時の船山北電支店長よりの祝辞と、小寺理事長の発刊のことばを、写真入りで一面を飾りました。

第二面には組合行事を掲載、第三面には組合員の長老、品沢電気の早坂清吾氏の横顔を紹介、つづいて地方組合員の「地区の顔」として森地区の組合員の活動振りを紹介しました。

第四面には「北電の動向」として、業界に対する希望事項や、北電の将来の計画等を載せ、更に組合員に安全をPRする話題、続いて組合員の慶弔のお知らせや、最後に編集長がまとめて、編集後記を掲載して創刊号が出来上りました。

第二号の「いなづま」からは、組合員の親睦を深める意味で「奥様訪問」「地区だより」「私の道楽」「

組合員の横頭「私の思い出」等読んで楽しく、また組合員の知られざるエピソードや趣味等が紹介され、各方面より親近感をおぼえる楽しい機関誌として喜ばれ、組合員や外部の人達からも、次回の発刊が待ち遠しいとの言葉を頂き、編集員としてこんな嬉しいことはありませんでした。

わずか五・六人の編集員が、それ〴〵手分けして耳目、足を使つての取材や編集もまた楽しみの一つでもありました。

題字に達筆をふるって下さった小寺理事長も今は亡く、組合員も二百二十名を超える大世帯になり。昭和二桁の組合員が大半を占める現在、いつの間にか「いなづま」も公報誌に変わつて了つた事に一抹の淋しさを感じます。現代の風潮としてあまり刊行物を読まない人が多くなり「大人のマンガ」が流行し、文章による感情や感激が味えない現在々人情味々のある温い読物を我々は創り出し、皆さんに読んでもらいたいと願うものであります。

十年の歳月が、味気ない機関誌に姿をかえても我々編集員の、当時の「いなづま」創刊の心情は變つていないと、ひそかに自負をしている一人であります。

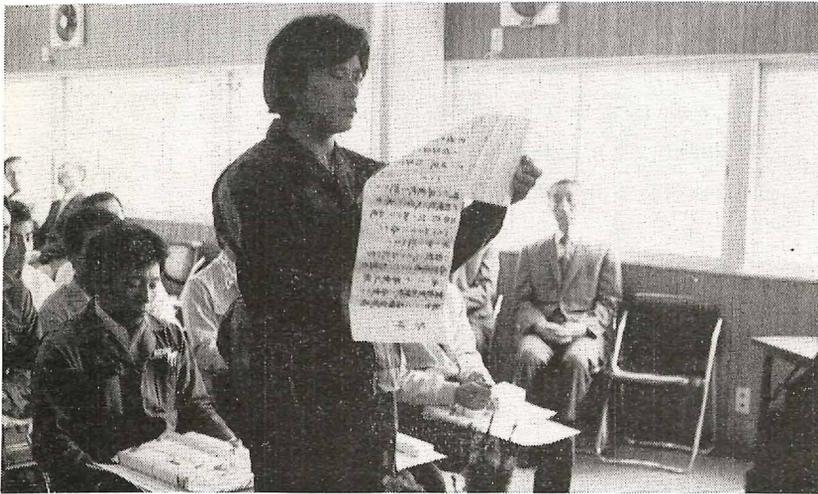
訓練校、本年度教務 予定通り進行中

当組合の函館電気高等職業訓練校は、新年度に入り予定の行事及び教務活動に入った。

先づ本年度入学式は四月三日に、函館市の訓練センターにて、補習授業のため入学式とは日時の入れ替つた卒業式及び修了式は四月二十二日、組合会議室にて挙行された。

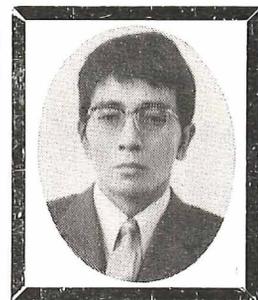
本年入学の新入生は三十一名と例年に比較して圧倒的に多く、また高年令、高学歴の人も増えて来ていて特に大学卒業者が目立ちはじめたのも昨年から傾向の様である。訓練校としてもこれらに対応しつゝ指導員講師間の打合せや教務日程の編成、教材の整備等山

積している業務をこなしながら既に一・二年生共、四月五日から本年度の授業が開始されている。
なお組合の新年度予算案の作成に伴い、訓練校予算も編成中であるが、こゝ六・七年据置きであった指導員講師の手当等についても、増額の必要に迫られ過日の訓練校運営委員会(役員会の訓練部会委員と校長、副校長、一・二年教務主任)でもこの件で活発な意見交換があったが、組合からの補助金の大巾なアップは(訓練生が地域的にみて函館市及び周辺に限られることから)望めないとして、財源として年間一人当たり三万六千円の授業料のほか、賛助会費的又はPTA会費的な名目で、各事業主に協力を願うことに意見統一があったようである。



【答辞を朗読する卒業生 山下幸男君 (向)池田電気工事勤務】

追悼記



北支部、高橋電気商会高橋寿氏が四月三日急逝されました。こゝに生前を偲びつゝ哀悼の意をさしげます。

故高橋寿氏は北電江差営業所に勤務しておられる高橋宗男氏の実弟にあたります。

昭和三十四年四月榊藤電気商会に入社後、十四年間同社に勤務、その間に電気工事士、外線工事士等の免許を取得し、同社々長の片腕として活躍していましたが、世相の状況により独立を決意し、四十九年に同社を退社してその後同社の下請をしながら、得意先の開拓に努力し、五十年六月念願の電気工事組合に入会を果たし、若手経営者として張り切って仕事に励んで来られました。

去る三月二十日腹痛のため入院、その後急速に悪化して、二十二日の検査では「肝臓ガン」との事で既に手の施し様もなく、四月三日午後七時五十八分函病において、三十六才を一期として惜しい生命は昇天されたのであります。

夢と希望をもやして独立をし、若手のホープとして輝き始めた男の仕事が、志なかねにして他界された事はどんなに残念であったことか、察するにあまりあるものであります。
謹んで故人の御冥福を祈りつゝ、哀悼の記といたします。

北電人事異動

(昭和53年2月21日付)

新 役 職 名	旧 役 職 名	氏 名	備 考
営業部 サービス課長	函館支店営業課長	岡嶋成昌	
営業部中央給電指令所長	函館支店七飯電力所長	宝福和彦	
送電幹線建設所次長	函館支店用地課長	村上守	
函館支店用地課長	土地環境部課長代理	船本栄一	
函館支店営業課長	道央支店岩見沢支社営業課長	松宮和男	
特 1 級 と す る	函館支店江差営業所長	村上貞雄	
函館支店七飯電力所長	工務部変電課課長代理(工事計画担当)	斧良彦	
労務部労務課課長代理	函館支店労務課副長	高橋良樹	
道央支店岩見沢支社営業課長	函館支店営業課副長	千葉勇吉	
室蘭支店室蘭営業所配電課長	函館支店配電課副長	木村富整	
1 等 級 と す る	函館支店営業課副長	沢田拓	
道央支店札幌営業所副長	函館支店料金課副長	山本富三	
道央支店豊平変電所長	函館支店七飯電力所運転係長	坂上克行	
2 等 級 と す る	函館支店用地課係長(3等級)	中岡義文	
函館支店労務課副長	道東支店根室営業所業務係長	阿部正	
函館支店営業課副長	函館支店函館営業所業務課業務係長	高橋礼一	
函館支店営業課係長(2等級)	道東支店帯広支社営業課料金係長	成田光雄	
函館支店料金課副長	営業部営業課	岡山博保	
函館支店配電課副長	道東支店配電課副長	金丸大成	
函館支店七飯電力所運転係長	函館支店函館電力所運転係長	薩摩茂	
道央支店岩見沢支社配電課保守係長	函館支店函館営業所配電課保守第二係長	正井喜知郎	
道央支店砂川電力所保修係長	函館支店函館電力所保修係長	富田博保	
室蘭支店伊達営業所配電係長	函館支店配電課	楠谷邦久	
函館支店函館営業所業務課業務係長	函館支店営業課	村上義太郎	
函館支店函館営業所配電課保守第二係長	道北支店網走営業所配電係長	白幡利吉	
函館支店函館電力所運転係長	函館支店発変電課	田中昭良	
函館支店函館電力所保修係長	函館支店発変電課	統享	

(昭和53年3月20日付)

労務課

新 役 職 名 (新 所 属)	旧 役 職 名 (旧 所 属)	氏 名	備 考
函館営業所配電課係長(4等級)	七飯電業所長	近藤与四郎	
七飯電業所長	今金電業所長	三上英二	
恵山電業所長	戸井電業所長	中村与八	
函館営業所配電課保守第二係主任	戸井電業所長	猪口初雄	
福島営業所配電係主任	函館営業所配電課配電係	佐藤慶三	
八雲送電所主任	八雲送電所	笠島康司	
配電課	函館営業所配電課保守第一係	青木義明	
"	" " 工事係	須貝義男	
発変電課	七飯電力所保修係	恩田重夫	
"	" "	相内宣宏	

新 役 職 名 (新 所 属)	旧 役 職 名 (旧 所 属)	氏 名	備 考
函館営業所配電課配電係	白尻営業所	坂上勝彦	
〃 〃 工事係	福島営業所配電係	葛間功	
〃 〃 〃	江差営業所	大西博	
〃 〃 保守第一係	古武井電業所長	渡辺松義	
〃 〃 〃	大野電業所	笠島通	
〃 〃 〃	北桧山電業所	永井薫	
〃 〃 保守第二係	函館営業所配電課保守第一係	青島孝亮	
大野電業所	森電業所	池田晴男	
亀田電業所	函館営業所配電課保守第二係	田村幹夫	
〃	松前電業所	黒滝進	
恵山電業所	戸井電業所	伊藤達雄	
〃	函館営業所配電課保守第一係	後藤広司	
〃	亀田電業所	佐藤慶司	
〃	戸井電業所	井田範行	
白尻電業所	函館営業所配電課保守第一係	斎藤祐司	
北桧山電業所	江差営業所保守係	山村正光	
北桧山電業所	亀田電業所	銭谷昌幸	
今金電業所長	北桧山電業所	奥山敏明	
森電業所	檜法華電業所長	柚賀功	
松前電業所	函館営業所配電課保守第二係	河岸昌志	
江差営業所配電係	福島営業所保守係	成田喜代勝	

(昭和53年3月31日付)

労 務 課

新 所 属	旧 所 属	氏 名	備 考
上磯電業所	茂辺地電業所長	茶木龍雄	

辞 令 面	旧 所 属	氏 名	備 考
停 年 退 職	函館支店・北海電安協出向 2 館支級付・海道電気保安長 2 函館支店・北海電安協出向	半沢博	



「いなづま」が
創刊以来もう十周
年にもなる、とい
う感慨よりも私達
の年令が十才も増
えたのだという感
傷の方が先にたつ
この頃です。

移り替った歴代編集長や編集員の諸兄、それから生
みの親とも云べき当時の故小寺理事長、小寺氏の遺
筆は題字の「いなづま」に今も生きておりますが「組
合機関誌いなづま」に何かがおきたのではなく、この
組合にこの十年間に、いろ／＼な大小の事件や変化が
世の変遷と共に発生し、その都度私達組合員は喜び、
怒り、笑いそして苦悩の渦にもまれて来たという思い
が一度にわいて来ます。

戦後日本の復興も爛熟期にかゝってからの経済的
な激動の十年間を組合の皆様と、苦業を共にしてきた
「いなづま」ですが、この十年間の組合の思想、組
織、運営の変化程にはいつも変り映えのない内容で
常々皆様に申訳なく思っております。

その替りについては言訳がましいのですが、本年は
当組合創立三十周年に当り記念式典も盛大に開催され
たのを機に「いなづま」では、組合創立三十周年記念
号を発売致しました。組合事務所移転が度重なった
故か、古い記録書類の行方不明等で、正確は期し難い
のですが、ある程度後々の参考になる様な記念号をと
編集員一同大車輪で制作にあたりました。

この創刊十周年記念号とダブリましたが、本号では
元編集長の諸兄の追想文章を掲載して、何とか十周年
らしくお茶を濁す次第です。

私達の業界では、前方に微かながら錯覚ともいえる
光明がみえる昨今ですが、巷では相変わらず不況風が吹
き荒れるキビシイ経済環境下の昭和五十三年を、私達
組合員の叡智を衆めてたくましく乗り切る為の一助と
して、この「いなづま」に建設的な意見や思想等を奮
って御寄稿下さる様、勿論私編集員も魅力ある「い
なづま」に成長する様努力致します。

組合員の皆様の温い御支援御協力を重ねてお願い致
します。

あかるい明日を技術でひらく

東芝電材株式会社

函館営業所

040 函館市大縄町二十二番十四号

電話 函館 ㊸ 二二四一

吟味する

松下電工株式会社

函館営業所

函館市昭和町三九六の一

電話 函館 ㊸ 五八二一

工事材料・電化製品

丸晃電気株式会社

函館市西桔梗町五八九・四九

電話 ㊸ 一三一一

全道随一の照明設備センター

電設機器資材の総合電機卸

大興電機株式会社

本社 函館市西桔梗町五七〇一

電話 ㊸ 六一一一

照明 函館市千才町十九の三

電話 ㊸ 七一四八

営業所 札幌・八雲・福島



三菱電材特約店

あらゆる電設資材卸

隆東電機株式会社

函館市西桔梗町五八九・一〇八
電話 ㊸ 六二二六

電設資材・機電総合卸

進和電機株式会社

040 函館市松川町三四一・一三

電話 ㊸ 六一三一

明日をひらく電設資材の総合卸商社

株式会社工ミヤ商会

函館出張所

函館市豊川町七番二八号

電話 ㊸ 三〇二一 (代表)

本社・札幌・支社・東京・営業所・釧路出張所・苫小牧

電気工事材料

石垣電材株式会社

函館出張所

本社 〇〇〇 札幌市中央区北三条西三丁目一番地

電話 〇〇〇 三三一九一一

本店 〇〇〇 苫小牧市末広町七番地

電話 〇〇〇 四一四二三七

出張所 〇〇〇 函館市八幡町三〇番一三三号

電話 〇〇〇 四一三三三八三番